

池田 觀 纂
田 輯

小學修身新篇

初等科

卷五

176
4
168

大日本圖書會館			
一	二	一	
一	八	二	八
冊	號	架	函

館
函
架
號

K110.1
9
5

福羽美静校閱
池田 觀纂輯

初等科卷之五

小學脩身新篇

版權所有 東崖堂刊行

小學脩身新篇卷之五

福羽美静校閱
池田 觀編輯

第十五章

○凡そ人の人たる所以の者は禮義なり。禮義の始めも容體を正し顔色を齊へ。辭令を順にするふあり。
○孝子の親に事ふるに躬親らすべ

礼記

小學脩身新篇 卷之五

し。他人に委ぬべからず。呂希哲

○其身正しけまば。令せどして。行ふ

はる。其身正しからざれど。令すと雖

從はず。論語

○禮義を以て。交際の道とを省心雜言

○君子ハ。敬を主として。其内を直く

し。義を守りて。其外を方ふず。近思錄

○道學なけまば。藝多しと雖。根本た

たきま。日日に下る。静寄雜錄

○千里の行も。足下に始む。老子

○光陰も惜むべし。逝水の如

し。宗顔之推

○身を立つるハ。學を勉むるを

以て先とす。五種遺記

○書を讀むこと。百遍ふきを。
其義自ら通ず。童蒙須知

○學問ハ。志を立つるを本とす。具原厚信

○志あるものは。事竟ふなる。光武帝
○玉琢かざれを。器を成さざ。

人學ばざきを。道を知らず。禮記

○獨り學んで。友なければ。孤陋ふして。問ふこと寡し。學記

○時過ぎて。後に學べを。苦しみて成り難し。禮記

○人の徳義と。才智を益をえ。

學問ふあり。静寄雜錄

○事ハ勉強ふあるのみ。董仲舒

○人當ニ有用の學をふまへ

し。無用の學を為さべからず。

大和俗訓

○人みな幸を得んとならば

人事をつとめよ。平家物語

○良田萬頃も一藝の身ふあ

るに如かず。願體集

○父母師友の敬戒も務めて

守るべし。杏翁醉話

○自ら敬をまじへ人も亦己を

敬す。讀書錄

○自ら慢むをきば。人亦已を

慢ず。讀書録

○吾能に矜るも恥あり。吾不

能を飾るも亦恥なり。畜徳録

○名を成まは毎に窮苦の日

ふあり。

事を敗るは多く得意の時に

因る。傳家寶

○心に望むこれを困窮した

る時を思ひいだすづ。

杏翁醉話

○君子ハ其能くもる所を以

て人を病ましめず。

人の能くせざる所を以て人を愧かしめず。禮記

○前車の覆るも後車の戒めなり。賈誼新書

第九章

○分別も堪忍にあると知る

づー。杏翁醉話

○人として一言も悪しき事を語るべからず。藤原小黒磨

○善き人を親み悪しき人を疎め。大江公資母相摸

○過ちて善く改むるを善の

大なるものふり。孝經

○誠ハ人の心の主とすべし。

貝原篤信

○敬をまきバ徳聚り。敬せざれ

を散す。朱熹

○徳も善を積むにあり。禍い

ハ惡を積むふあり。三略記

○人を敬ひく。節に過たるを。

其過ち大ならず。

我位より。傲きるハ。其過ち大

ふり。大和俗訓

○人誰か過ちなからん。過ち

てよく改めむ。善これより。大

なるはあし。左氏傳

○善人を見て。之に倣ひ。不善人を見て。之を改む。

善と不善と。みな吾師あり。傳家賢

○人の廉潔少して。正直なる

べし。都鄙問答

○豹死して皮を留め。人死し

て名を留む。梁王元章

○無道を行ふべからば。非禮

をなまべからず。聖徳太子

○奢りも。長ずへからむ。欲は

縦まじらむべからず。曲禮

○節を制し。度を謹めば。満ち
く溢まらず。孝經

○禍福も。門なし。唯人の招く
所ふり。左氏傳

○身を謹み。用を節して以
て。父母を養ふ。孝經

○人遠き。慮りなき時ハ。必近
き憂へあり。論語

○堪忍も。無事長久の基ひふ
り。怒りは敵と思へ。杏翁醉話

○學を好むも。知に近し。耻を
知るは。勇ふ近し。中庸

○人の過ちも。吾心も。之を知
るも。妄りに口も出さず。か
ら
ず。
大和俗訓

○人の長ずる所を取り。短き
所を言はず。
大和俗訓

○君子ハ。人の善を掲げて。人

の悪を隠す。
大和俗訓

○耻を知るものも。長して勇
あり。
櫻井書

第十章

○人徒に。一生を過ぐるも。禽

獸不同。
貝原篤信

○人菜根を咬み得るものす
くな。明汪信民

○言に戯まふければ人自ら
懼るゝなり。貝原篤信

○博く之を學び。審かに之を
問ひ。慎みて。之と思ひ。明かふ

之を辨まへ。篤く之を行ふ。中庸

○凡そ人善を好まざるはな
し。是を好まむ。學問して。道理
を知るべし。大和格訓

○其道を明かにして。其功を
計らず。董仲舒

己を責めて人をせむることなかれ。杏翁醉話

○言語慎まざれば殃をまね

く。民家童蒙解

○禍ひも小より起りて大

及ぶ。護良親王

○大人の學は道の為ふす。

小人の學も私の為にす。揚子

○善を為と者は天報ゆるに。

福いと以てす。前漢書

○我身才ありとも誇るべからず。

貝原篤信

○書を熟讀せざまじく。用ふた
ちがたし。省儉録

○書を讀むも。精熟を貴びて。
多を貪るを貴ばず。初學知要

○己に如かざる者を。友と
ることなかれ。論語

○人をあそまふは。仁ふり。人
を敬するハ。禮なり。貝原篤信

○人の鏡となれ。人の戒とな
るゑかま。聖諭

○慈悲も。一生の祈禱なり。

○志立たざまじく。天下成るべ

徳川光國

きの事あり。王陽明

○志を立つるは恥を知るを

要とす。言志録

○精神一たび到れを何事か

成らざらん。朱熹

○徳を博く人を愛するより

高きはなし。賈誼新書

○毫釐の差も千里の差とあ

る故に君子は始を慎む。上同

○士道ふ志し。惡衣惡食を恥

るものい。未だとも議る不

足らざるなり。論語

○人を譏むを。即自ら誹るる
り。傳家寶

○謙なれむ。自ら恭敬の心を
存す。素餐錄

○奢は長じ易し。つゝ一むべ

。都鄙問答

○人驕むば。志昏し。志昏けれ
む。計ごと短か。傳家寶

○人惰りて。侈きバ貧し。カめ
て儉ふれを富む。管子

○人一たび。遊惰の念を生ず
れむ。其心蕩して。學退く。省儉言録

○智者ハ言を慎み。行ひを慎みて。身の福ひとなす。賈誼新書

玉木愛石書 

小脩身新篇卷之三終

附録禮法生徒心得

父母に對してハ。色を和らげ。氣を下し。温和を主とすべし。

先生長者我家不來りて。歸らるる時ハ送りて。門戸に至り。禮をなまべし。

長者不對し。禮辭を述べざして。室不いつるなど。粗暴の事をふまべつるべし。故を告げざして。激笑とべからず。

朋友の家不ありて遊ぶも。食時不及げ。必辭して歸るべし。

女児ハ柔和にして。別して辭ばづかひもどやさ
しくまづ。女児も殊小衣服を正しく着け。頭髮ふど。亂れど
る様小。心づくづ。人の家にては。行儀を正しくし。奔馳喧噪して。戯
るべからず。人を譏まば。人亦吾を譏るふ至る。慎むづ。座上
小置きたる器物ハ。跨ぎ踰ゆづ。戸障子ハ。跪きて。静小開閉まづ。戸障子。壁等小。字を書くべからず。

席小墨を汚さべからず。爐邊に坐しては。火を弄ぶづ。股を開き。足を伸ぶるハ。不恭なり。何もふても。坐上の器物。或ハ飾花の類小。手を觸
るべからず。他人の書籍。帳簿など。猥り小披き見るべからず。他人より。信書を托せらるる時ハ。遅緩を届く
づし。其封等を猥り小すべからず。席小つと。長者と座する時ハ。下席につくづし。ま
た飲食する時も。必長者小後るづ。

附錄禮法生徒心得終

明治十五年九月廿九日版權免許
同 十六年四月 出版

福井縣士族

編輯人 池田 觀

岐阜縣平民

出版人 山岸彌平

大阪府東區常磐町
二十番地寄留
同府同區北濱二丁目
五十五番地寄留



發兌

書肆

東京々橋區桶町

東 崖 堂

大阪東區北濱二丁目

東 崖 堂

岐阜縣岐阜西材木町

東 崖 堂

池田 觀纂
田 輯

小學修身新篇

中等科

卷一

78

176
4
168

111

市古圖書館

大日本教育書館			
一	二	一	
一	八	二	八
冊	號	架	函

函八
架五
號

K110.1
209
3